



第 13 回うるま市少年の主張大会 祝 最優秀賞！ 伊禮結華さん

7月7日（金）きむたかホールにて市内 11 校の代表が参加し、3年生伊禮結華さんが最優秀賞を獲得し、学校全体で喜んでいます。9月の中頭地区大会参加決定！



『バリアフリー』について考える

先日、ショッピングモールに家族で行った時のことです。「あのお店入りたいのに、入り口の幅がせますぎて入れない。」と弟がつぶやきました。私の弟は、障がいを持っていて、車イスが必要な生活をしています。私も日常生活の中で弟の車イスを押し、一緒だったらその不自由さを感じることがあります。しかし、普段自分が不自由していることで、何も言わない弟がこんなふうにつぶやくのはめずらしいなと思いました。私は、そのつぶやきを聞いて、少しハッとしました。もしかしたら、弟が不便に思っていることは、私が考えている以上にたくさんあるかもしれないと思ったからです。

私は、最近「バリアフリー」という言葉に興味を持つようになりました。「バリアフリー」とは対象者である障がい者や高齢者などが社会生活に参加する上で、生活の支障となる障害を取り除いた状態を表す言葉だそうです。ニュース番組では、バリアフリーマップを作ってそれを地図アプリにしている団体があることを目にしました。その番組を見ていると、そういう物を使うことで、不便さを感じず、生活を楽しめるのではないかと思います。実際に、私達の身の回りの「バリアフリー」には、障がい者用駐車場やスロープなどがあります。しかし、残念ながら、「バリアフリー」を必要としている人たちのものなのに、そのために使われていないと思うところもあります。

私が家族で買い物に行った時の出来事です。車を止めようと車イス専用の駐車場を探していたら、停めていた車の中から、健常者が降りてきました。私は、歩いて入り口まで行けばいいのになと思いました。車イスに乗っている人が降りやすいようにと広く作られた駐車スペースに、自分が楽をしたい、荷物をすぐに乗せたいなどの理由で停めるのは間違っていると思います。けれど、現在、日本では健常者が障がい者用駐車場に停めても注意されるだけで、ちゃんとした法律はないそうです。ですが、他の国ではちゃんとした法律があり違反して停めている人はあまりいないそうです。だから、私は、健常者が障がい者用駐車場に停めないようにするには、停めていたら、注意するだけでなく、法律で罰せられるようにすれば、本当にこの駐車場を必要としている人が使えるようになると思います。世の中の動きとして、こういう駐車場を作ったり障がいを持った人々に目を向けてくれる動きが広がっていることは、うれしいことだと思います。しかし、国ごとに意識の差があるように一人一人の意識が変わらなければ、本当の「バリアフリー」は実現できないと思います。

健常者と障がい者を分けることは、逆差別だから、障がい者が優遇される社会はどうなのかという意見もあります。私はその意見に対して、優遇されているのではなくて「配慮」だと思っています。私が思う「配慮」とは困っている人の声に耳を傾ける心づかいということです。みんなが同じ人間として生まれ、同じように学び、働き、生きていくようにすることも当然のことではないでしょうか。少し不自由な部分を、一人一人の思いやりや配慮で、同じようになると思います。障がい者や健常者は関係なく一人一人がお互いに助け合っていくことが自然とできるような世の中になることが、本当の「バリアフリー」だと思います。（原文掲載）